

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	芦屋大学
設置者名	学校法人 芦屋学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
臨床教育学部	教育学科	夜・通信	14	4	46	64	13	
	児童教育学科	夜・通信			60	78	13	
経営教育学部	経営教育学科	夜・通信		—	108	122	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

資料配布と学内掲示 https://www.ashiya-u.ac.jp/outline/information/
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)
該当なし

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	芦屋大学
設置者名	学校法人 芦屋学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学園ホームページの情報公開の事業報告書（P.3）内にて公開している。
https://www.ashiya-e.jp/Tj54V8D6/wp-content/themes/ashiya-e/assets/files/discloser/h30_work.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	公益社団法人アジア協会 アジア友の会 常任理事	平成29年5月28日～ 令和2年5月28日	財務担当
非常勤	兵庫信用農業共同組合 連合会 非常勤監事	平成29年5月28日～ 令和2年5月28日	特任・総務業務
(備考) 両理事にも学園の経営改革プロジェクトチームに参画していただいている。			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	芦屋大学
設置者名	学校法人 芦屋学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業計画書 (シラバス) の作成過程 『学部・大学院シラバス (授業計画書) 作成要領』を基に、各教員より提出されたシラバス原稿を、各学部長及び学科主任、研究科主任などの FD 委員会において点検を行う。「シラバス記載上の留意事項」に照らして不備や欠落が認められる場合は、修正を依頼する。 ・ 授業計画の作成・公表時期 (3 月末 (履修登録時)) <p>全教員に対してシラバスの作成依頼時に、別添資料の「シラバスの作成要領」を配布し記載内容に不備が起きないように努めている。併せてシラバスの点検ならびに公開に関する事項も記載し教員への理解と協力を得られるように努めている。</p> <p>本学のシラバスは、冊子での配布形式のためワードファイルによる入稿からチェックならびに修正の過程を繰り返し、校了後印刷業者で印刷製本され納品される。</p> <p>シラバスを配布する時期は年度末 (3 月下旬) に実施する新年度に向けた履修説明会で全学生に配布している。公開用には、校了と製本印刷の過程の間に並行して作業を行い PDF ファイルに変換し、履修説明会に間に合うように本学ホームページに公開している。例年教員の出講依頼等の理由で、冊子掲載の校了の間に合わない授業科目が発生した場合は、別刷りでの配布や学内掲示にて学生への周知に努め、履修登録に影響が出ないようにしている。公開用についてもその都度 PDF ファイルを修正し最新のシラバスを公開している。</p> <p>次年度に向けては、入稿から校了までの作業時間やシラバスのチェック点検から修正まで作業をスムーズに行うために WEB シラバスの導入を進めている。これにより作業の効率化だけでなく、学生が受講している授業科目の成績評価基準や到達目標、授業時間外準備時間などがリアルタイムに確認することができることで、学習意欲の向上や成果へ繋げることを目指す。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>https://www.ashiya-u.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2019/04/syllabus2019.pdf</p> <p>2019 年度シラバス (刊行物)</p>

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

学則第5章卒業要件、資格取得、単位及び学士号 第7条～第9条の3基に、あらかじめ設定した成績評価の方法・基準により、厳格かつ適正に単位授与又は履修認定を実施している。

https://www.ashiya-u.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2019/03/info_daigaku_gakusoku.pdf

学生便覧 2019 年度（刊行物）

単位認定、進級及び卒業・修了認定等の基準については、入学時に学生に配付される『学生便覧』の「芦屋大学学則（抄）」第5章卒業要件、資格取得、単位及び学士号第7条以降に明記されている。また、毎年度初めに実施される履修登録説明においても、卒業要件について学生に周知徹底している。併せて配付される『シラバス』においても、「学生に対する評価」として各科目の成績評価方法を明記している。

進級については、2年次終了時の合計取得単位が24単位未満の学生には、上級学年の科目取得申請ができないものとし、実質的な留年措置としている。GPA 評価を部分的に導入し、その評価を特待生制度や奨学金制度の審査資料としている。このため正確な審査資料が必要となり、各学期において講義回数が5回を超えた時期に履修科目取り消し期間を設定し厳格な成績評価に取り組んでいる。

また、学則第5章第7条に定める卒業要件とする学部学科ごとの単位数124単位に、卒業論文を必修科目として配置している。卒業論文を制作する上で、学生は3年生から4年生の2ヵ年を継続して同じ専門演習（ゼミナール）に所属し、担当教員の指導の下卒業論文制作を執り行うこととなっている。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

「成績評価における「GPA等」の客観的な指標の設定について」を配布ならびに学内に掲示し、GPAの算出方法と指標の振り返りについて周知をしている。

本学では、成績評価の指標として履修科目の評価と併せて学期ごとに計8セメスター分の成績表を保護者へ郵送するに当たり、GPAと素点(平均含む)を学生個人の成績表に指標として記載している。これにより保護者を含め学生自身も客観的な学修成果の振り返りができる状況を提供している。

2019年度からは、GPAと素点(平均含む)を活用し、学部、学科、学年ごとに成績分布を作成し、学科主任やクラス担任への配布を行い、全体の成績分布から見る学生個人への客観的指標による学修指導を進めている。

またGPA算出の時期は、各学期の本試験終了後保護者へ成績表を郵送する時点と追再試験の結果後の学期(年度)更新時期にGPA算出を行い最新の数値としている。

《GPA値算出式》

$$GPA = \frac{\text{(履修科目のグレートポイント} \times \text{履修科目の単位数) の総和}}{\text{履修科目 (不合格科目・無資格科目を含む) の単位数の総和}}$$

成績評価点に応じた5段階のGP(グレートポイント)は下表のとおりです。

本学成績評価		成績評価点	GP (グレートポイント)
合格	秀 (S)	100~90	4.0
	優 (A)	89~80	3.0
	良 (B)	79~70	2.0
	可 (C)	69~60	1.0
不合格	不可(無資格含む) (D)	59~0	0.0
認定	認 (N)	なし	対象外
履修変更期間と履修科目削除期間中に取消をした科目			対象外

GPの算出は、科目のGP(グレートポイント)に、科目の単位数を掛けた値を全て合算して、その値を履修科目(不合格科目・無資格科目を含む)の単位数の合計で割ったものがGPAの値となる。※履修変更期間中と履修科目削除期間中に取消した科目は、GPA値算出の計算式には算入されません。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

配布及び学内掲示(発刊物)
<https://www.ashiya-u.ac.jp/outline/information/>

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>大学のディプロマポリシー 建学の精神である「人それぞれ天職に生きる」と実践綱領を自覚し、在学中に専門的知識・技能・人間力を身に付け、天職を通して個性や長所を発揮できる資質や能力を有している人に卒業を認定し、学位を授与する。</p> <p>臨床教育学部のディプロマポリシー 臨床教育学部に在籍し、教育理念・教育目標に沿って設定した授業科目を履修し、各分野の単位を修得することを学位授与の基準とする。</p> <p>経営教育学部のディプロマポリシー 経営教育学部に在籍し、教育理念・教育目標に沿って設定した各コースの授業科目を履修し、各分野の単位を修得することを学位授与の基準とする。</p> <p>単位認定、進級及び卒業・修了認定等の基準については、入学時に学生に配付される『学生便覧』の「芦屋大学学則（抄）」第5章卒業要件、資格取得、単位及び学士号第7条以降に明記されている。また、毎年度初めに実施される履修登録説明においても、卒業要件について学生に周知徹底している。併せて配付される『シラバス』においても、「学生に対する評価」として各科目の成績評価方法を明記している。</p> <p>卒業判定についても、在籍期間を満たし所定の単位を修得した者を学部教授会の議を経て学長が卒業を認める。したがって、認定基準等は組織的に策定され、学生に周知されていることで明確化がなされ、厳格かつ適正な認定を行っている。</p>	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	学生便覧（刊行物） 学則 (https://www.ashiya.ac.jp/outline/information/)

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	芦屋大学
設置者名	学校法人 芦屋学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	(学) 芦屋学園 H P https://www.ashiya-e.jp/Tj54V8D6/wp-content/themes/ashiya-e/assets/files/discloser/h30_calculation.pdf
収支計算書又は損益計算書	(学) 芦屋学園 H P https://www.ashiya-e.jp/Tj54V8D6/wp-content/themes/ashiya-e/assets/files/discloser/h30_calculation.pdf
財産目録	(学) 芦屋学園 H P https://www.ashiya-e.jp/Tj54V8D6/wp-content/themes/ashiya-e/assets/files/discloser/h30_calculation.pdf
事業報告書	(学) 芦屋学園 H P https://www.ashiya-e.jp/Tj54V8D6/wp-content/themes/ashiya-e/assets/files/discloser/h30_work.pdf
監事による監査報告(書)	(学) 芦屋学園 H P https://www.ashiya-e.jp/Tj54V8D6/wp-content/themes/ashiya-e/assets/files/discloser/h30_inspection.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 大学のH P https://www.ashiya-u.ac.jp/outline/evaluation/
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 臨床教育学部
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.ashiya-u.ac.jp/outline/information/) (概要) 本学の使命・目的は、豊かな教養と人間性を身につけ、生きがいを持って社会に貢献できる人材を育成することである。そのため建学の精神に併せて実践綱領として「独立と自由」「創造と奉仕」「遵法と敬愛」を謳い、本学の教育に反映させてきた。豊かな教養と人間性を身につけ、自立し、社会に貢献できる力、具体的には、考えて行動し、チーム力を大切にする、目に見えない学力を「人間力」と位置づけ、社会で即戦力となる「人間力」を備えた人材の育成こそ時代の要請であり、本学の目的である。 【臨床教育学部】 個人の可能性を引き出す教育とともに、幼児、児童及び生徒などの教育の困難に直面している親・教師の問題を具体的に研究し、これらの問題を解決する能力を伸ばす教育について、教育・研究することを目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.ashiya-u.ac.jp/outline/information/) (概要) 【臨床教育学部】 臨床教育学部に在籍し、教育理念・教育目標に沿って設定した授業科目を履修し、各分野の単位を修得することを学位授与の基準とする。 【教育学科】 教育学科の教育課程の単位を修得し、下記の能力を身に付けた人に卒業を認定し、学位を授与する。 1. 幅広い専門教養と専門的知識を有している人。 2. 中学校・高等学校教員としての目標をはっきりと持ち、教育に主体的・自律的に取り組み、教育者やリーダーの資質や実践力を有している人。 3. 将来の進路を明確にし、卒業後に教育や心理、スポーツに関する専門的知識や技能を活用して個性や長所を發揮できる人。 4. ダンスを通じて自己表現ができ、ダンス関係の知識・技能を持ち、活用できる人。 【児童教育学科】 児童教育学科の教育課程の単位を修得し、下記の能力を身に付けた人に卒業を認定し、学位を授与する。 1. 乳幼児期、児童期の子どもの心身の発達に関する知識を幅広く習得し、福祉・教育現場で必要とされる実践力を身に付けている人。 2. 保育士、幼稚園教員、小学校教員、特別支援学校教員としての目標をはっきりと持ち、教育に主体的・自律的に取り組むことができる人。 3. 子どもを取り巻く地域社会の発展に寄与することができる人。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.ashiya-u.ac.jp/outline/information/>)

(概要)

臨床教育学部の目的は、本学の建学の精神を踏まえて「個人の可能性を引き出す教育とともに、幼児、児童及び生徒等の教育の困難に直面している親・教師の問題を具体的に研究し、これらの問題を解決する能力を伸ばす教育について、教育・研究すること」である。

【臨床教育学部】

学生が自己の専攻分野の学修を高度化・深化できるような教育内容と学修方法を踏まえた教育課程を編成する。専門知識や技能の修得と同時に、人間力や豊かな人間性の育成を目指す学修方法を整える。

【教育学科】

臨床教育学部のカリキュラムポリシーを踏まえて、各コースの専門科目、およびスポーツ・ダンスに関する実技や科学を理解できるように教育課程を編成する。さらに理論を実践に応用できる能力を養成する学修方法を整える。また、管理栄養・衛生・身体についての知識やメカニズム、心身の健全な発育・発達を学修し、さまざまな年代や分野におけるダンスを含めたスポーツ教育に関する知識や技能を修得できるような教育課程を編成する。卒業後の進路を明確にできるように学年進行に伴いキャリア関係の科目を設置する。入学時から、初年次教育とキャリア教育に則った教育課程を編成する。

【児童教育学科】

優れた保育者・教育者の養成を目指し、教養、専門性、実践力、社会性、自己実現力などの学士力を養うため、保育・教育課程の編成・実施、保育内容・教科の実践的指導・生徒指導/教育相談・学級/学校経営・学校教育と教員のあり方に関する科目を設置し、体系的な教育課程を編成する。

卒業後の進路を明確にできるように学年進行に伴いキャリア関係の科目を設置する。入学時から、初年次教育とキャリア教育に則った教育課程を編成する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.ashiya-u.ac.jp/outline/information/>)

(概要)

大学における入学者の受け入れ方針は、建学の精神に基づく教育目的に応じて、大学のアドミッションポリシー、『求める学生像』、各学科のアドミッションポリシーに明文化されている。各学科のアドミッションポリシーの周知については、募集要項、入試ガイド、本学ホームページに明記している。また、オープンキャンパスや進学相談会、高校内ガイダンス、高等学校教員対象入試説明会で資料を配布し、入学者の受け入れ方針（アドミッションポリシー）について説明している。

『求める学生像』

1. 自分の個性や適性について考え、自分の持てる力、可能性を切り開いていこうとしている人。
2. これまで体験したことや人との出会い等を整理し、大学で学びたいという動機をはっきり持っている人。
3. 未来の夢について、これから主体的に取り組んでいきたいことについて、情熱を持って人に伝えることができる人。
4. としている。学部学科については以下のとおりとする。

【臨床教育学部】

学生生活を通して素質や可能性を発見し、引き出し、育て、人類文化の創造に寄与することが臨床教育学部の教育目的である。そのため大学の内外において学修と経験を積み重ね

ることによって人間力を育成するとともに、自己の将来の進路を明確にするための基礎学力・思考力・判断力・表現力・意欲・態度・積極性を有している人を求める。

【教育学科】

教育学科は教育や心理に関心を持ち、それらについての専門的知識を探究する教育学・心理学・スポーツ教育・地域スポーツ指導者・ダンスの各コースでの教育課程を学修するための基礎学力・基礎体力・意欲を有した人を求める。各コースでの学修を通して将来の進路を探索しながら人間力の形成を目指す人を求める。

1. 教育に関心を持ち、教育関係の仕事に主体的に取り組むための基礎学力・思考力・判断力・表現力・意欲・態度を有する人。
2. 人間の心理、教育心理、人間発達、カウンセリングに関心がある人。将来、教育現場や職場・地域で心理学の知識を活かして活躍したい人。教育カウンセラーや心理カウンセラーとして困難をかかえた人々を支援したい人。
3. 中学校(社会・保健体育)・高等学校(公民・保健体育)の教員を目指す人。
4. 地域や学校の部活動におけるスポーツの指導者、スポーツビジネスの世界で活躍することをを目指す人。
5. 大学教育にふさわしい学問的アプローチを行いながら、ダンスの技術を磨き、ダンスを通じて自己を表現できるように、将来教員・指導者や、ダンスパフォーマーを目指せる基礎的知識・技能及び高いモチベーションを有する人。

【児童教育学科】

子どもは次代を担う大切な存在である。彼らがすくすくと豊かに育つようにかかわりサポートするのは大人の責任である。保育士、幼稚園や小学校の教師には、子どもが夢や目標を持ち、彼らがそれを達成するように寄り添い、励まし導く教育力が求められる。一方、家庭や地域社会の教育力が低下している今日、地域社会と密接した関係にある保育園、認定子ども園、幼稚園や小学校が連携して子どもの教育にあたる必要がある。児童教育学科は、このような社会の期待に応える意欲のある人を求める。

1. 乳幼児期、児童期の子どもの心身の発達に強い関心のある人。
2. 保育士、幼稚園教員、小学校教員、特別支援学校教員として将来の目的をはっきりと持っている人。
3. 子どもを取り巻く地域社会の発展に寄与することを目指す人。

学部等名 経営教育学部

教育研究上の目的

(公表方法：<https://www.ashiya-u.ac.jp/outline/information/>)

(概要)

本学の使命・目的は、豊かな教養と人間性を身につけ、生きがいを持って社会に貢献できる人材を育成することである。そのため建学の精神に併せて実践綱領として「独立と自由」「創造と奉仕」「遵法と敬愛」を謳い、本学の教育に反映させてきた。豊かな教養と人間性を身につけ、自立し、社会に貢献できる力、具体的には、考えて行動し、チーム力を大切にする、目に見えない学力を「人間力」と位置づけ、社会で即戦力となる「人間力」を備えた人材の育成こそ時代の要請であり、本学の目的である。

【経営教育学部】

経営学に加えて、現代社会が直面する産業・技術動向に関する幅広い知識を、教育・研究することを目的とする。

<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.ashiya-u.ac.jp/outline/information/)</p> <p>(概要)</p> <p>【経営教育学部】 経営教育学部に在籍し、教育理念・教育目標に沿って設定した各コースの授業科目を履修し、各分野の単位を修得することを学位授与の基準とする。</p> <p>【経営教育学科】 経営教育学科の教育課程の単位を修得し、下記の能力を身に付けた人に卒業を認定し、学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 一般企業の他、さまざまな業種において、ビジネスの仕組みや時代に即したセンスとスキルを身に付け、次世代を担うリーダーとしての資質や能力を有している人。 2. 家業の継承や起業などに向け、経営を実践的に学びながら人間性を深める幅広い知識や教養を有している人。 3. 教育者として、学校とそれを支える地域コミュニティづくりを推進する資質と能力を有し、技術科、情報科の専門科目の実践的指導ができる人。 4. 培った人間力を踏まえて社会で生きる力、情報活用能力、コミュニケーション能力を有し、多面的な知見から思考し、行動することができる人。 5. 自ら問いを立て、社会環境の変化に柔軟に対応できる応用力を有し、他者と協調し、チームとして合理的に解決していく総合的な能力を有している人。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.ashiya-u.ac.jp/outline/information/)</p> <p>(概要)</p> <p>【経営教育学部】 建学の精神に基づき、学生が自己の専攻分野の学修を高度化・深化できるような教育内容と学修方法を踏まえた教育課程を編成する。専門知識や技能の修得と同時に、人間力や豊かな人間性の育成を目指す学修方法を整える。</p> <p>【経営教育学科】 本学の建学の精神「人それぞれに天職に生きる」のもと、生き方や職業に関する情報を積極的に提供し、学生に「気づき」と「行動」を促すキャリア教育を重視した教育課程を編成する。また、学科内の科目を通し自らの資質を向上させ、社会的、職業的自立をはかるため必要な能力を養うことができるような教育方法・学修方法を考慮した教育課程を編成する。卒業後の進路を明確にできるように、学年進行に伴い就職系と教職系の専門科目を設置した教育課程を編成する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.ashiya-u.ac.jp/outline/information/)</p> <p>(概要)</p> <p>大学における入学者の受け入れ方針は、建学の精神に基づく教育目的に応じて、大学のアドミッションポリシー、『求める学生像』、各学科のアドミッションポリシーに明文化されている。各学科のアドミッションポリシーの周知については、募集要項、入試ガイド、本学ホームページに明記している。また、オープンキャンパスや進学相談会、高校内ガイダンス、高等学校教員対象入試説明会で資料を配布し、入学者の受け入れ方針（アドミッションポリシー）について説明している。</p> <p>『求める学生像』</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の個性や適性について考え、自分の持てる力、可能性を切り開いていこうとしている人。 2. これまで体験したことや人との出会い等を整理し、大学で学びたいという動機をは

<p>つきり持っている人。</p> <p>3. 未来の夢について、これから主体的に取り組んでいきたいことについて、情熱を持って人に伝えることができる人。</p> <p>4. としている。学部学科については以下のとおりとする。</p> <p>【経営教育学部】 知識基盤社会の一員として、自ら学び、自ら考え、自ら道を拓く能力を培うことにより、社会で貢献できる人材を育成することが経営教育学部の目的である。そのために本学部では、高等学校課程までに修得した知識や教養、倫理観に基づき、自己の可能性に挑戦する人を求める。</p> <p>【経営教育学科】 社会が形成され発展していくには、人を育て、人を活かせる、リーダーシップの能力が求められている。本学科は、経営学と教育学を軸に、各コースの専門的知識の獲得と実践力を身につけ、主体的に将来の進路を探索しながら真摯に学修に励む人を求める。下記に各コースで求めている学生受け入れ方針を示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 企業等の管理者としてビジネスリーダーを目指している人。将来、経営者として家業継承を担う人。経営マネジメント能力を身につけたい人。航空や観光ビジネスに必要な専門的知識および汎用的スキルを身につけ、サービスやホスピタリティ業界で活躍できる能力を身に付けたい人。 2. 中学校技術科、高等学校情報科の教員として教育分野に関心のある人。情報教育やICTの分野に興味がある人。 3. 自動車技術を学び整備士の国家資格取得を目指す人。自動車ビジネスの分野で活躍したい人。 4. バレエの専門理論や高度なバレエ技術を磨きたい人。創作活動を通して、教え・育てるという教育分野に関心がある人。公演活動を通して、バレエスクール、バレエカンパニーなどを管理・運営し経営的視点を身に付けたい人。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法： https://www.ashiya-u.ac.jp/outline/information/

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1・1人	—					2人
臨床教育学部	—	19人	9人	2人	2人	0人	32人
経営教育学部	—	12人	3人	1人	2人	0人	18人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員				計	
0人		97人				97人	
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://www.ashiya-u.ac.jp/outline/information/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
臨床教育学部	150人	141人	94.0%	600人	470人	78.3%	若干名	12人
経営教育学部	100人	120人	120.0%	400人	411人	102.8%	若干名	0人
合計	250人	261人	104.4%	1000人	881人	88.1%	若干名	12人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
臨床教育学部	97人 (100%)	0人 (0.0%)	80人 (82.5%)	17人 (17.5%)
経営教育学部	49人 (100%)	2人 (4.1%)	39人 (79.6%)	8人 (16.3%)
合計	146人 (100%)	2人 (1.4%)	119人 (81.5%)	25人 (17.1%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

シラバス(授業計画等)の作成については、教科を担当する全教員に対してシラバスの作成依頼時に、別添資料の「シラバスの作成要領」を配布し記載内容に不備が起きないように努めている。併せてシラバスの点検ならびに公開に関する事項も記載し教員への理解と協力を得られるように努めている。

本学のシラバスは、冊子での配布形式のためワードファイルによる入稿からチェックならびに修正の過程を繰り返し、校了後印刷業者で印刷製本され納品される。

シラバスを配布する時期は年度末(3月下旬)に実施する新年度に向けた在学生履修

説明会で全学生に配布している。公開用には、校了と製本印刷の過程の間に並行して作業を行い PDF ファイルに変換し、履修説明会に間に合うように本学ホームページに公開している。例年教員の出講依頼等の理由で、冊子掲載の校了に間に合わない授業科目が発生した場合は、別刷りで配布や学内掲示にて学生への周知に努め、履修登録に影響が出ないようにしている。公開用についてもその都度 PDF ファイルを修正し最新のシラバスを公開している。

次年度に向けては、入稿から校了までの作業時間やシラバスのチェック点検から修正までの作業をスムーズに行うために WEB シラバスの導入を進めている。これにより作業の効率化だけでなく、学生が受講している授業科目の成績評価基準や到達目標、授業時間外準備時間などがリアルタイムに確認・再認識することができることで、学習意欲の向上や成果へ繋げることを目指す。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

単位認定、進級及び卒業・修了認定等の基準については、入学時に学生に配付される『学生便覧』の「芦屋大学学則(抄)」第5章卒業要件、資格取得、単位及び学士号第7条以降に明記されている。また、毎年度初めに実施される履修登録説明においても、卒業要件について学生に周知徹底している。併せて配付される『シラバス』においても、「学生に対する評価」として各科目の成績評価方法を明記している。

また、進級については2年次終了時の合計取得単位が24単位未満の学生には、上級学年の科目取得申請ができないものとし、実質的な留年措置としている。GPA評価は全学的に算出しているが、評価の活用は部分的に導入し、特待生制度や奨学金制度の審査資料としている。このため正確な審査資料が必要となり、各学期において講義回数が5回を超えた時期に履修科目取り消し期間を設定し厳格な成績評価に取り組んでいる。

また、学則第5章第7条に定める卒業要件とする学部学科ごとの単位数124単位に、卒業論文を必修科目として配置している。卒業論文を制作する上で、学生は3年生から4年生の2ヵ年を継続して同じ専門演習(ゼミナール)に所属し、担当教員の指導の下、卒業論文制作を執り行うこととなっている。

卒業判定については、各学部学科のディプロマポリシーに基づき在籍期間を満たし所定の単位を修得した者を学部教授会の議を経て学長が卒業を認める。したがって、認定基準等は組織的に策定され、学生に周知されていることで明確化がなされ、厳格かつ適正な認定を行っている。

GPA 評価及び評価の客観的指標

<https://www.ashiya-u.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2019/07/info2019-2-12.pdf>

学則第5章卒業要件、資格取得、単位及び学士号 第7条～第9条の3基に、あらかじめ設定した成績評価の方法・基準により、厳格かつ適正に単位授与又は履修認定を実施している。

<https://www.ashiya-u.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2019/07/info2019-2-1.pdf>

学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
臨床教育学部	教育学科	124単位	有・無	単位
	児童教育学科	124単位	有・無	単位
経営教育学部	経営教育学科	124単位	有・無	単位

GPAの活用状況（任意記載事項）	公表方法：
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）	公表方法：

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.ashiya-u.ac.jp/outline/information/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
臨床教育 学部	教育学科	750,000円	300,000円	450,000円	
	児童教育 学科	750,000円	300,000円	450,000円	
経営教育 学部	経営教育 学科	750,000円	300,000円	450,000円	
		0円	0円	30,000円	技術科教職課程教材費（履修学生より在学中1回に限る）

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

（概要）

将来の「天職」に向け、入学から卒業までの学生生活で、専門的なキャリアアップを実現します。就職活動や教員を目指す学生のフォロー、留学・語学研修の支援など、万全のサポートを実施。入学から卒業までのキャリアアップをお手伝いします。

学生の学修環境の整備を通して、学修上の利便性を向上させるための支援及び各種相談体制を充実させている。

- **相談体制の充実**—学生の勉学や生活上の問題について、早期に対応するとともに、各種相談（心理、勉学、生活、ハラスメント等）を受けやすい環境を整備する。
- **障害のある学生への支援の充実**—障害のある学生への支援内容の充実を図っている。また、障害のある学生への配慮申請等により申請内容を学内教職員等で共有し、障害のある学生に充実した学園生活ができるよう支援体制を作り実行している。
- **生活、課外活動への支援**—学生の住居、通学、学友会、サークルやクラブなどの活動を支援し、学生の自発的な活動の活発化を図っている。
- **学生の意見尊重**—学生の意見や改善要望等を尊重し、学生生活の向上に努めている。

毎年度前期の履修登録前には、全学生を対象とした学年別の履修説明会をクラス担任（ゼミナール担当教員含む）も同席で実施している。併せて教員免許や資格等の取得を希望する学生を対象として、別日に教職教員支援課職員も加わり専用の説明会を開催している。全体の説明会の終了後には、学科やコース、クラス等に分かれて少人数で再度履修説明の確認を行い履修登録でのトラブルを回避することに取り組んでいる。その際、学生便覧（履修方法含む）を使用し、単位認定や卒業要件、学事計画など学生への周知事項を再度確認するなど二重の連絡とチェック体制を執っている。また、大学全体としての共通認識の下で、教職員が履修指導と学修支援などが行えるように、学生便覧（履修方法含む）とは別に、教務課が毎年「履修登録〈教員資料〉」を作成し、学内関係教職員へ配布し、指導に齟齬が起きないように徹底している。

時間割の配分なども、再履修し易いように、学科内の必修科目や教員免許および資格取得に必要な必修科目等は極力重複しないように配慮している。また、履修人数に制限のある科目について、予め複数のクラスを設け抽選等で当該年度に履修ができない状況を回避するように心がけている。それでも履修ができなかった学生に対しては、翌年の履修登録を優

先に受け付けるなどの配慮を行っている。

履修登録が終了し、授業が開始された1週間以内が履修変更期間として、履修科目の追加・削除・変更を認めている。この変更期間を利用し、教務課においては全学生の履修状況から、卒業要件や教員免許や資格取得の履修登録忘れがないか、全てチェックし問題のある学生は呼び出し、再度履修登録指導を教務課が行う体制と執っている。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

就職部では社会人としての実践的能力にスキルアップする、少人数制教育だからできる一人ひとりのやる気を活かす個別支援を行っています。各人が①自分の適性について考え抜く②体験を通して現場や社会を知る③その仕事に必要な知識や技能について理解する。といった段階を踏みながら、社会への第一歩を、自信をもって踏み出せるようサポートします。3年次の夏休みに実施するインターンシップは、本学の教育理念を理解してもらえ企業や、本学園卒業生が経営する企業に厳選して受入れを依頼しています。

教職支援課では、教員免許状取得に必要な実習（教育実習・介護等体験等）の手続き、実習中の留意事項等についてのオリエンテーションを実施しています。また、教員採用試験合格を目指す学生のため、春休み・夏休みを中心に小学校・中学校・高校・特別支援学校受験者を対象に無料の教員採用試験対策講座を通年開講しています。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

健康管理センターでは体調のすぐれない学生に対し、看護師2人が交代で健康相談などに応じています。平成30年度より、セミナーセンターに、学生部教育相談所（修学支援室（ホットルーム）・カウンセリング室）と健康管理センターが集約され、臨床心理士・言語聴覚士・保健師・看護師免許を持つ教職員と、各部署が連携し心身両面にわたる学生支援体制が整いました。また本年度より、公認心理師を配置し、心の健康に関する知識の普及や情報の提供を図っています。

修学支援室では、学習面の悩みを持つ学生の課題を面談や指導を通して把握し、個別性に沿った支援を実施することで学習意欲の維持を図っています。

カウンセリング室では、人間関係や将来についての悩み等でカウンセリングを希望する学生は元より、周囲の教職員がカウンセラーの介入が必要と認めたケースについても対応し、継続的な心の健康の改善や保持増進を図っています。

健康管理センターでは、このような専門的な支援が、大学全体で総合的かつ適切に提供されるよう教職員へ情報発信し協力を依頼するほか、学外機関と連携を図り、研修に参加し、支援体制を強化します。また、合理的配慮の申し出について窓口となり、学生と保護者、教員、各部署を結ぶ調整役となり、学生生活を支援します。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.ashiya-u.ac.jp/outline/information/>